

「Iターン・Uターンの若者への住宅支援を」

大島の人口が減り、町に元気がなくなっていることを心配する声が多くの方から聞かれるようになって、かなりの年月が過ぎているのではないかと思います。日本全体がそうだから、とは言っても、いくつかの自治体では人口を増やしているとの情報もあります。

人口を増やすためには、子どもがたくさん生まれればいい、というのが一つあります。子ども生み、育てやすい環境を作ることは自治体に課せられた大きな課題です。

その前に、子どもを生んでくれる若い世代が大島に来てくれることが必要です。島出身の若者が帰ってきてくれることが一つ、これがUターンです。もう一つはいわゆる移住して来てくれる人、Iターンと呼んでいるようですが、こうした人々をいかに増やせるかが、ポイントになるのではないかと思います。古くから島にいる者の中には、移住してくる人に対して、どこかで理由もなくのけ者にしたがるような感情を抱いている場合があります。私の子どもの頃はかなり強くあったと思います。しかしよく考えてみれば、元々島は移住者で成り立ってきたのであり、かくいう私も元を正せば江戸時代の移住者の子孫であり、現在の私のすぐ身近にも妻という名で移住してきた人が存在しているのです。ということで移住は当たり前、現代は積極的に移住歓迎を打ち出していかなければならない時代だと考えます。

移住してくると言った場合に問題になるのが、仕事と住居です。仕事については別の機会に譲るとして、今回は住居について、質問・要望したいと思います。

- ① 今後定住促進住宅として町営住宅を建設する計画はありませんか。
- ② 国や都、あるいは、東京電力などの職員住宅の空き部屋を、1年限定でもいいので借りることはできませんか。

これについて、例えばということで、教育庁大島出張所でいただいた資料によれば、大島の教職員住宅は、現在リフォーム中の物も含め216戸あり、入居世帯は194世帯とのことです。多少の余裕はあるのではないかと思います。もちろん都教委相手に交渉が必要ですからハードルは低くはありません。

- ③ 家賃を多少補助して、民間の空き家を活用することはできませんか。

保育園も含めた福祉関係の従事者、農業、漁業をやってみたい若者、観光業にチャレンジしたい若者など、一人でも二人でも積極的に受け入れ、島の活性化につなげてほしいと思います。

「児童虐待防止のために」

昨年3月目黒区でノートに「もうおねがい。ゆるして」と書いていた5歳の女の子の命が虐待によって奪われました。そしてつい2か月前、千葉県野田市で小学4年生の女

の子が両親の虐待によって亡くなりました。悲しいニュースでした。

平成 27 年度に厚労省が発表した統計では、虐待の疑いが専門機関に通告された件数は児童では 10 万 3260 件だそうです。他に高齢者や障害者に対しての虐待のデータもありますが、児童虐待が圧倒的に多いということです。1 年間に表に出てきたケースだけでもこれだけあるということは、今や児童虐待はまれな出来事ではなくなっているということです。原因はさまざま考えられています。核家族化する中で子育ても孤立化していること、貧困による育児放棄、親のストレスなど、「一部のひどい親」だけの行為ではなく、多くの親に起こりうるものになっている面があるということです。

こう考えてくれば、我が大島においてもその可能性は決して否定できないということになります。わかりやすいのは「身体的虐待」ですが、他にも子どもに食べ物をきちんと与えないなどの育児放棄である「ネグレクト」、「性的虐待」、そして子どもの心と脳にダメージを与える「心理的虐待」など、4 種類に分類されています。虐待を受けた子どもは私がよく取り上げる発達障害とよく似た症状に陥るとい研究もあります。

日本には子どもを守るための法律がありますが、中でも「児童虐待防止法」というストレートに子どもへの虐待を防止するための法律があります。この法律では、私たち国民に「通告義務」、そして自治体や福祉事務所などには「通告対応義務」が明記されています。この法律の趣旨に基づき、質問します。

- ① 児童虐待が疑われた時、学校・保育園の教職員はどうすべきか、また近隣住民はどうすればいいですか。
- ② 児童相談所がない大島では、どう対応することになるのですか。
- ③ 虐待に陥ってしまうことを悩む親へはどう支援の手が差し伸べられるのか、相談窓口はどこですか。
- ④ 虐待防止を広報等でアピールする必要があると考えるがいかがですか。